

各地の たより



四万十川流域の 森林・環境を考える

— 中高生がフィールドワーク —
〈ふれあいセンター〉

四万十川流域の国有林で、今年も中高生のフィールドワークが実施され、四万十森林管理署とともに支援しました。

十一月四日は、四万十町にある四万十高校と十川・昭和・大正・北ノ川の各中学校の生徒七十七名が、津野町にある船戸山国有林を訪れました。

今回は、四万十川流域の森林生態系を学習し、自然のあり方を考えるきっかけにしたいとの目的で、源流点や源水の地があり原生林が残る「不入山」と、



いらざやま「不入山」での学習の様子



間伐体験の様子

代表的な人工林である「西の千本」をフィールドとしました。各ポイントでは、四万十森林管理署とふれあいセンターの職員が、林況や複層林施業、「郷土の森」などについて説明しました。「源水の地」では、四万十川の始めの一滴を見学、疲れも忘れて感動の様子でした。「西の千本」では、既に「魚梁瀬千本山」を見学している四万十高校生が、比較しようと熱心に説明を聞く姿が見られました。

また、十一月十一日、横浜市の神奈川学園高校二年生三十三名が、四万十川の支流、黒尊川流域の「八面山」に登りました。

今回は、森と川の関係や自然や環境をテーマにして参加した生徒が多く、山歩きと眺望を楽しみながらも、シカの食害や土壌などの質問がありました。

また、宿舎で樹木当てゲームが予定されていることから、歩道沿いの樹木説明では、デジタルカメラで撮影したり熱心にメモを取ったりしていました。

午後は、黒尊山に移動して間伐を体験しました。

生徒たちは、間伐の重要性については、既に、学習していますが、作業は初めてで、職員から安全作業の心構えを聞き、五班に分かれて開始しました。ノコギリを手際よく扱う生徒、思い通りの位置に切れない生徒と様々でしたが、約一時間かけて各班二本程度の間伐ができ、満足そうな表情でした。

黒尊川流域での学習は一日だけでしたが、同校の近くを流れる鶴見川との違いを理解してもらおうフィールドワークとなりました。

森からの贈り物

木工クラブで笑顔いっぱい

〈ふれあいセンター〉

近年、木材は再生可能な資源として評価されています。

そこで、端材や間伐材の小枝などを活用したクラブ作りを通して、木の利用を考えたり森林や自然環境への関心を高めてもらおうと、小・中学校で出前



の木工教室を実施しています。

十一月六日は宿毛市の栄喜小学校、十三日は鬼北町の日吉中学校、十四日は松野町の松野南小学校に出かけ、動物の置物や携帯ストラップなどの作り方を指導しました。

始めに、木材の特徴や特性について説明してからクラブ作りに取り組みました。小学校低学年は、職員や先生の応援を受けながら携帯ストラップが完成、「お母さんのもつくりたい」の声がかれました。高学年や中学生は、見本を参考にしながら独創性豊かな作品が完成、満足そうな表情でした。

子どもたちからは、「木材の話聞くことができてよかった」「今日の作品を大切にしたい」の感想があり、森林や木材への関心・興味に繋がる一歩となりました。

親子行事で 木工クラブづくり

〈高知中部署〉

十一月九日、香美市立大宮小学校一年生とその保護者三十六名を対象に木工クラブ作成教室を行いました。

恥ずかしそうな表情をうかべた子どもたちは、お父さんやお母さんなどと一緒に、当署手作りのキットでフクロウを作り、ホオノキのフレームに貼り付けました。最後に、ドングリヤヤシャブシの実などで、まわりを飾って完成し、仕上がった作品を満足そうにみせてくれた男の子からは「むずかしかったけど、お母さんと一緒に作る事が出来て楽しかったです。」との感想が聞かれました。



森林の再生と地域との交流

〈高知中部署〉

十一月八日、香美市香北町で、「フオレストランド二〇〇八」が開催されました。この催しは、香南市にあるルネサステクノロジ高知事業所が高知県と協働の森パートナーズ協定を締結し、森林の再生と地域との交流を目的として行われているものです。

当日は、あいにくの雨で、現地で予定されていた間伐体験や植樹体験が中止になったため、会場を屋内に変更して行われました。

当署は、間伐の重要性に関する話の外、木の葉当てクイズ、木工クラフト作成コーナーを担当しました。木の葉当てクイズ



木の葉当てクイズの様子

では、あらかじめ十三種類の木の枝を用意しておき、それぞれの名前を回答してもらいました。スギ・イチヨウなどの簡単な樹種にはほぼ全員が正解しましたが、シロタモ・ウラジロガシなどあまり馴染みのない樹種には苦戦していたようです。このゲームを通じて、森林を形作っている様々な樹木の存在を感じ取っていただけたと思います。

県境越え シカ食害防止活動

〈高知中部署〉

十一月十一日、三嶺の森をシカの食害から守ろうと、高知県側の大桁中学校と徳島県側の木頭中学校の生徒や先生達八十名余りが三嶺の麓、みやびの丘で交流行事や、樹木にネットを巻き付ける体験活動を行いました。

この活動は、「高知県森と緑の会」が主催したもので、高知中部森林管理署も応援しました。

生徒達は、現地で交流を深めながら、シカによる食害の実態を確認し、両県共通の課題について学びました。ササや樹木がシカに食べられて枯れている状況を、実際に見て驚いていました。お昼にシカ肉のすき焼きを食べた後、生徒達は協力して丘の周



シカ食害防止用ネットを巻く両県の生徒達

辺にあるモミやナナカマド、カエデ類など百八十三本に食害防止用のネットを巻き付けました。

生徒達からは「同じ山の麓で交流ができて良かった」「ネット巻きは大変だったけれど、森を守る大切さがわかって良かった」という感想が聞かれました。両県の学校同士がこの地域で協力して活動することはめずらしく、有意義な体験になったことと思います。

ふれあいの森で活動

〈徳島署〉

十一月十三日、徳島県那賀町の釜ヶ谷国有林「ふれあいの高城の森」において、高知林業土木協会会員三十名が歩道



活動に参加した皆さん

修繕・苗木の保護作業・枝打ちの三組に分かれ作業を行いました。

現地には剣山スーパードライ道の崩壊・通行止めにより入山するのは約一年半ぶり、歩道には土砂や枯れ枝等が堆積し、昨年の春に植えた苗木は積雪による影響で幹が曲がり、お辞儀状態でしたが、会員の入念な作業で見事に回復できました。

当日は寒い日が予想されていましたが、晴天に恵まれ作業も順調に進みました。最後に「ふれあいの森」の看板をきれいに磨いて作業を終りました。

親子で動物作り

〈徳島署〉

十一月十六日、徳島市ふれあい健康館内の親子ふれあいプラザにおいて、ボランティアクループ「ともだちいいな」と協力し、木の枝で作る動物作りを開催しました。

同グループは、幼稚園や児童館等で絵本の読み聞かせや人形劇など、多彩な催しを定期的に行っているグループで、今回、徳島署が児童館で実施した木工教室の作品を見て、「是非とも子どもたちに作らせてあげたい」と協力の要請がありました。

当日は、午前と午後に分け合計六十個を用意しましたが、申込み多数で作れない親子も出るなど盛況の中、終了しました。

